

## 2021年ゴルフ場企業の経営交代 及び法的整理、ゴルフ場名称変更

# コロナ禍で低水準も、 上場系企業の資産整理、 中堅企業の売買目立つ



本誌姉妹紙『隔日刊ゴルフ特信』で毎年まとめている、1年間のゴルフ場企業の法的整理及び経営交代、ゴルフ場名称変更。2021年は、依然コロナ禍にあつて、いずれも前年に比べると判明した数が少ない傾向となつている。

**【経営交代】21年は23コースと例年よりやや少なく。ほぼ任意の株式売買、上場系企業の資産整理ないし中堅ゴルフ場企業取得目立つ**

2021年に経営交代が判明した国内ゴルフ場は、計23コース（注・交代判明時のデータも含む）を数えた。前年の20年は27コースなので、4コース減少したことになる。

近年の状況を見ると、19年59コース、18年32コース、17年169コース、16年35コースと隔年でコース数が多くなる傾向にあつたところだが、今回は2年続けての減少となつている。

経営交代ゴルフ場の分布では、茨城の3コースが最多で、以下、千葉、東京、石川、滋賀、兵庫、広島が各2コース、宮城、福島、栃木、群馬、長野、静岡、大阪、

岡山各1コースと続き、本州のみの15都県に及んだ。

経営交代の方法では、ほとんどがゴルフ場事業会社の株式売買か、ゴルフ場事業の新設分割会社の株式売買による「株式の移動」。経営交代理由では、法的整理によるものが亀山湖CC（千葉）と池田CC（大阪）の2件にとどまり、その他は任意売買が主だった。任意売買されたコースの半数以上は過去に経営交代を経験している。また、大手企業系の資産整理の動きが続いており、旧経営母体には上場企業系が目立った。

経営交代で取得した新母体で見ると、PGM、ユニマツト、太平洋クラブ、リソルなどゴルフ場運営で上位を形成するグループの他に、近年ゴルフ場を増やしている（株）バンリユーゴルフ、川島グループ、ロックフィールドゴルフリゾート（株）、サンコーグループ、明輝建設グループも名を連ねた。

（株）明輝建設グループが20年12月にチェリーゴルフグループの金沢GCとチェリーGC金沢東コース（ともに石川）のゴルフ場事業会社株式を取得して売買が成立した。同グループは、ゴルフ場の取得と

表① 2021年経営交代判明のゴルフ場

—ゴルフ特信調べ—

所在地	ゴルフ場名	H数	旧・経営、母体等	新・経営、母体等	取得方法	号数
岐阜	フォーティーンヒルズCC	18	東亜鉄工建設株	韓国系・阿蘇やまなみRH&GC	20年に株式取得し会員の権利等も承継	6753
宮城	ミヤヒル36GC	18	青葉ゴルフ	所有権取得の大阪の会社と契約した(株)アクシスが運営。新名称=たいわGC	所有権移転に伴う営業会社変更。9月仮オープン	6698
福島	猫魔ホテル猪苗代Gコース	18	リベステ株他	(株)ミナミ・エンタープライズ	猫魔ホテル猪苗代ゴルフコース(株)の株式取得し9月から運営	6721
茨城	金乃台CC	18	日本製鉄系列	(株)太平洋クラブ	(株)金乃台に事業を集約し、株式を太平洋クラブに譲渡。5月1日から単独の会員制クラブとして継続	6638
茨城	マナGC	18	(株)グッド・ゴルフ・マネジメント	(株)ユニマットプレシャス	7月21日に経営の(株)グッド・ゴルフ・マネジメントの株式取得し	6685
茨城	オールドオーチャードGC	18	大林組	PGM	茨城グリーン開発(株)の新設分割で東茨城ゴルフ(株)取得し10月1日から運営	6683
栃木	サンレイクCC	18	原中勝征氏	(株)タカラクリエイト。運営は(株)ザナショナルカントリー倶楽部	不動産投資会社がサンレイク(株)の株式や債権等を継承	6765
群馬	シルクCC	18	PGM	ロックフィールドゴルフリゾート(株)	G場会社の新設分割で3月1日に株式を取得	6598
千葉	亀山湖CC	18	芙蓉グループ企業が出資	リソルグループ。新名称=木更津東CC	再生会社のスポンサーとなり会社分割で4月に承継	6612
千葉	デイスターGC	27	大林組	公開されず	大林組は21年12月30日をもってゴルフ場営業終了。会社分割で新会社に	6700
東京	昭和の森Gコース	18	昭和飛行機都市開発(株)	公開されず	20年3月に親会社が米ファンド系に。その後不動産が移管され不動産を売却。G場が別用途に転用予定	6724
東京	大島GC	9	東京ケータリング	(株)アメニティコーポレーション。新名称=伊豆大島RGC	パブリックを株式取得で4月に承継	6689
長野	随縁軽井沢ナインハンドレッドC	18	随縁リゾートグループ	(株)稲治造園工務店のグループ。新名称=オーソルヴェール軽井沢C	4月26日にゴルフ場の事業譲渡で経営交代	6650
静岡	富士国際GC	36	三菱地所	三甲(株)のサンコーグループ	富士国際GC事業のみとなった東日本開発の株式取得、9月30日に承継	6650
石川	金沢GC	27	チェリーゴルフグループ	(株)明輝建設	株式取得し20年12月15日に交代	6607
石川	チェリーGC金沢東C	18	チェリーゴルフグループ	(株)明輝建設。新名称=チェリーGC金沢東C	株式取得し20年12月15日に交代	6607
滋賀	皇子山CC	18	タニミズグループ	ロックフィールドゴルフリゾート(株)	6月1日に新設分割の(株)皇子山カントリークラブを継承	6662
滋賀	蒲生GC	27	(株)ユニテックス関連	センコーグループホールディングス(株)	経営のエヌディーシー(株)の株主交代で9月に経営交代	6718
大阪	池田CC	27	池田CC	PGM。新名称=PGM池田CC	民事再生による新設分割で2月からPGMの運営に	6614
兵庫	宝塚高原CC	18	宝塚高原ゴルフ(株)	川島グループ	宝塚高原ゴルフ(株)の株式取得で。4月1日に運営委託も直営に	6633
兵庫	姫路相生CC	18	(株)A.Cインターナショナル (ACI)	(株)バンリユーゴルフ	6月1日に新設会社を取得し	6663
岡山	ランドマークGC	18	有限会社ランドマーク	(株)ブルーキャピタルマネジメント。合同会社Blue Resort ランドマークゴルフ倶楽部。新名称=Blue Resort ランドマークGC	21年1月17日に取得し新名称に変更と発表。併設の太陽光発電所、建設計画中のバイオマスガス化発電所と合わせ、クリーンな電気でのG場運営と	
広島	広島紅葉CC	27	(株)A.Cインターナショナル (ACI)	(株)バンリユーゴルフ	6月1日に新設会社を取得し	6663
広島	チェリーGC吉和の森C	18	チェリーゴルフグループ	韓国系・阿蘇やまなみRH&GC。新名称=広島吉和の森GC	株式取得し会員の権利等も承継	6753
茨城	サンクチュアリ霞南GC	18	サンクチュアアセットマネジメント	西山ホールディングス。新名称=霞南GC	株式取得し22年1月15日付け交代	6754
兵庫	ぜんCC	18	新業(株)	(株)バンリユーゴルフ	株式取得し22年2月1日に交代	6759
アコーディア・ネクスト (ANX)			MBKパートナーズ	ソフトバンクグループ傘下の米ファンド・フォートレス・インベストメント・グループ	22年1月31日にアコーディア・ゴルフ、ネクスト・ゴルフ・マネジメントとも親会社交代	6759
西武HDの10コース			西武HD	シンガポール政府系投資ファンドのGIC	資産譲渡は22年9月予定	6763

注・「号数」はゴルフ特信の掲載号数、グループ内再編やメガソーラー事業等への転換でのゴルフ場の株式取得・施設取得等は除く

売却を進めており、今回の2コース取得により石川県内で4コースを運営となり、兵庫県の子草CCを合わせると計5コースを傘下に収めたことになる。

(株)バンリユーゴルフは、(株)A・Cインターナショナルから21年6月1日に姫路相生CC(兵庫)と広島紅葉CC(広島)を取得した。さらに、今回の経営交代コース数にはカウントしていないが、今年2月1日には、ぜんCC(兵庫)も取得、着実に傘下ゴルフ場を増やしている。

サンコーグループは、三菱地所(株)所有の東日本開発(株)の発行済み株式すべてを21年9月30日に取得し富士国際GC(静岡)の運営を引き継いだ。ちなみに、三甲は21年11月に八甲(株)を吸収合併しており、ゴルフ場事業については三甲GCを冠した榊原温泉コース(三重)、京和コース(愛知)、谷汲コース(岐阜)、ジャパンコース(兵庫)経営の三甲(株)と、富士国際GC経営の東日本開発(株)で行っている。

一方、売却した旧母体では、チエリーゴルフグループが21年で3コースを売却し、資産整理を進め

ている。

昭和飛行機都市開発(株)は、パブリックの昭和の森Gコース(東京)の不動産を売却、22、23年にもゴルフ場の営業が終了する見込みだ。同社が20年3月のTOBで米ファンドの子会社となり、その後不動産が移管され売却となったもので、営業終了後のゴルフ場用地は別用途に転用される予定のようだ。

平和傘下のPGMは、21年にシルクCC(群馬)を売却した一方で、大林組からオールドオーチャードGC(茨城)を取得し、10月から運営を開始している。

その大林組だが、デイスターGC(千葉)も21年12月30日で営業終了している。今年1月には「むつぎわゴルフパーク(株)」という法人が新規登録されており、この会社が今後同GCを運営していくのか注目される。

ミヤヒル36GC(宮城)は経営会社が事業停止状態となり、所有権会社が運営を委託して、たいわGCと名称変更し営業再開している。サンレイクCC(栃木)も資産保有と運営引受けが別資本となっている。両コースのように、ゴルフ場を取得した会社が運営を委

託するパターンの経営交代が増えつつある。

外資系絡みでの経営交代は、阿蘇やまなみリゾートH&G(熊本)を経営

する韓国系の日本法人(株)T&G ネットワークスジャパ

ンがチエリーGC吉和の森C(広島)を取得、2年前に取得したフォーティーンズヒルズC(岐阜)

と合わせグループ3コース目となっている。21年は経

—ゴルフ特信調べ—

表② 経年別経営交代コース数・外資系絡みの交代コース数

平成	コース総数	増減数	増減率%	内会員制	比率%	内法整理	比率%	外資絡み	比率%	内外資へ	比率%	内韓国へ	比率%
21年	23	-4	-14.8	17	73.9	2	8.7	2	8.7	2	8.7	1	4.3
20年	27	-32	-54.2	27	100.0	1	3.7	9	33.3	5	18.5	1	3.7
19年	59	27	84.4	57	96.6			42	71.2	42	71.2		
18年	32	-137	-81.1	27	84.4	5	15.6	3	9.4	3	9.4	2	6.3
17年	169	137	382.9	164	97.0	6	3.6	140	82.8	137	81.1	6	3.6
16年	35	-19	-35.2	33	94.3	8	22.9	3	8.6	1	2.9	1	2.9
15年	54	14	35.0	46	85.2	10	18.5	5	9.3	3	5.6	0	0.0
14年	40	-26	-39.4	33	82.5	6	15.0	7	17.5	3	7.5	1	2.5
13年	66	8	13.8	58	87.9	29	43.9	7	10.6	4	6.1	1	1.5
12年	58	-117	-66.9	46	79.3	18	31.0	6	10.3	0	0.0	0	0.0
11年	175	123	236.5	145	82.9	12	6.9	130	74.3	2	1.1	1	0.6
10年	52	-29	-35.8	43	82.7	21	40.4	6	11.5	10	19.2	4	7.7
9年	81	-8	-9.0	66	81.5	14	17.3	10	12.3	16	19.8	5	6.2
8年	89	-42	-32.1	79	88.8	28	31.5	7	7.9	26	29.2	12	13.5
7年	131	4	3.1	111	84.7	52	39.7	6	4.6	50	38.2	8	6.1
6年	127	-43	-25.3	111	87.4	48	37.8	7	5.5	30	23.6	3	2.4
5年	170	26	18.1	147	86.5	95	55.9	3	1.8	41	24.1	8	4.7
4年	144	-23	-13.8	128	88.9	98	68.1	7	4.9	60	41.7	10	6.9
3年	167	104	165.1	162	97.0	132	79.0	0	0.0	91	54.5	1	0.6
2年	63	-25	-28.4							8	12.7	0	0.0
1年	88	67	319.0							45	51.1	0	0.0
0年	21	18	600.0							1	4.8	0	0.0

注・コース数は延べコース数、「内」はコース数の内数、「会員制」はSPを「内外資へ」は外資から外資含む

営業代コース数が過去に比べると低水準の20コース台ではあるが、大手の中堅ゴルフ場企業による売買は依然として活発で、ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた事業再編を進める企業も出てきている。

22年に入ってアコーディア・ネットワークゴルフ（ANX）グループが1月31日に、ソフトバンクグループ傘下の米ファンド・フォートレス・インベストメント・グループとなり親会社交代。また、西武ホールディングス（株）では2月10日、ホテル・レジャー事業施設の一部（計31施設のうちゴルフ場は10コース）をシンガポール政府系投資ファンドのGICへ9月に売却する基本協定書の締結を発表した。ANXの保有コースは169コース、西武グループの売却予定コースは10コースなので、22年の経営交代コース数は17年の169コース超えが有力となっている。

**「法的整理」申請は民事再生法2件、特別清算1件。3年連続でひと桁推移。再建方法は1件が自主再建、2件はスポンサー支援**

2021年の法的整理の申請状況を見ると、1月に1件（1社）、11月に2件（2社）あり、年間トータルで3件（3社）だった。

前年のゴルフ場企業法的整理申請4件（4社）に比べると、21年は1件（1社）の減少。3年連続でマイナスを記録するとともに、ひと桁申請も3年続いている。コース数は既設が3コース（前年比1コース減）、建設中・認可未着工が0コース（増減なし）。負債総額は107億円（120億円減）で、1件当たりの負債は36億円となり前年よりも21億円減っている。

2021年の法

表③ バブル経済崩壊以降の法的整理状況

	和議			民事再生			会社更生			破産			特別清算			会社整理			計			負債総額 (億円)	
	件数	既設	建認	件数	既設	建認	件数	既設	建認	件数	既設	建認	件数	既設	建認	件数	既設	建認	件数	既設	建認		
1990 (平成2)																							
1991 (平成3)	1		1							1		1								2		2	4,066
1992 (平成4)	1	1								1	1					1	1			3	3		1,626
1993 (平成5)							6	5	3											6	5	3	4,304
1994 (平成6)										3	2	1								3	2	1	237
1995 (平成7)	1	1								1	1		1	1		3	3			6	6		2,120
1996 (平成8)	2	1	1							2	1	1								4	2	2	1,216
1997 (平成9)	6	28	2				2	1	1	1	1									9	29	4	4,501
1998 (平成10)	4	6					2	3		5	5	2								11	14	2	5,094
1999 (平成11)	8	8	1				4	4		7	4	4	7	3	4	1	1			27	20	9	6,416
2000 (平成12)				17	18		2	3		5	5	3	1		1					25	26	4	12,076
2001 (平成13)				42	49		6	7		5	5	1	2	2						55	63	1	14,397
2002 (平成14)				66	75		23	50	1	5	2	3	3	3						97	130	4	30,024
2003 (平成15)				67	116	1	5	9		6	5	1	1	2						79	132	2	19,597
2004 (平成16)				56	65	1	15	25	1	5	3	2	6	17						82	110	4	19,239
2005 (平成17)				56	65	1	6	7		9	8	3								71	80	4	14,004
2006 (平成18)				44	51	1				6	5	1	2	3						52	59	2	5,781
2007 (平成19)				34	41		4	4		3	3									41	48		6,199
2008 (平成20)				22	24		4	4		3	3		1	1						30	32		3,949
2009 (平成21)				18	19		2	3		3	4		3	3						26	29		2,656
2010 (平成22)				21	22		3	3					2	2						26	27		1,485
2011 (平成23)				18	19		1	1		5	5		2	2						26	27		2,085
2012 (平成24)				19	37					6	6		1	1						26	44		3,110
2013 (平成25)				5	5					5	5									10	10		672
2014 (平成26)				8	9					4	4		1	1						13	14		525
2015 (平成27)				10	12					6	6		1	1						17	19		1,111
2016 (平成28)				7	7		1	1		4	4		4	4						16	16		744
2017 (平成29)				6	6								3	3						9	9		329
2018 (平成30)				8	10					5	5									13	15		539
2019 (平成31・令和元)				6	6															6	6		547
2020 (令和2)				3	3								1	1						4	4		227
2021 (令和3)				2	2								1	1						3	3		107
計	23	45	5	535	661	4	86	130	6	106	92	24	43	51	5	5	5	0	798	984	44	168,995	

注：1991（H3）年から2021（R3）年までの1次申請分を集計、民事再生法を申請した建設中・認可未着工ゴルフ場計画のみの企業4件・4コースはカウントから外している、負債総額は億未満切り捨て

表④ 2021年法的整理企業一覧

月日	会社名	態様	負債	預託金	関連コース
01.21	株東京ベイサイドリゾート	特別清算	20.98	13.2	★亀山湖CC (18H、千葉)
11.24	高松グランドカントリー(株)	民事再生法	46.8		★高松グランドCC (M、香川)
11.29	関ヶ原カントリークラブ	民事再生法	40		★関ヶ原CC (M、岐阜)

★は当該企業が施設所有・経営ないし会員権を発行しているゴルフ場、負債額等の単位は億円、関連コースのMは会員制ゴルフ場

的整理件数、負債総額は、表③を見てもわかるように、バブル崩壊後の1994年(法的整理件数3件、負債総額237億円)に近い水準になっている。負債総額は法的整理状況をまとめてから最も低い。

約46億8000万円(約46億8000万円)、関ヶ原CC(岐阜)経営の関ヶ原カントリークラブ(権利能力なき社団、11月29日、民事再生法申請、約40億円)。  
 (株)東京ベイサイドリゾートは、2006(平成18)年にも民事再生法を申請し自主再建型の再生計画案が認可決定を受けていた。しかしその後、売上が伸び悩み、2009年の2度にわたる台風と20年のコロナにより打撃を受けた。そこで、リソルホールディングス(株)をスポンサーに選定し、20年12月25日に亀山湖CCの事業承継に関する契約を締結していた。21年4月1日に会社分割で新設した(株)亀山湖カントリークラブにゴルフ場を承継させた。

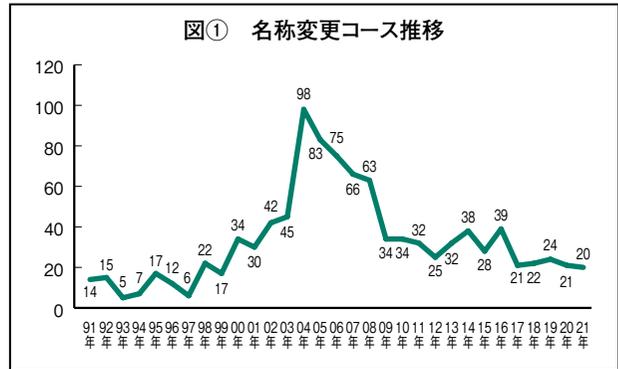
場の営業自体は黒字を維持していることからスポンサーを付けずに自主再建を模索していくという。関ヶ原カントリークラブは、1974(昭和49)年に岐阜県下の有力企業経営者らの協力の下、任意団体として開場した関ヶ原CCを運営している。任意団体が民事再生法を申請するのは、2000(平成12)年の同法施行以来、初めてのことだ。  
 同CCは岐阜県西濃地域における名門クラブとして知名度は高いが、会員預託金の償還期限が経過して新型コロナの影響から退会者が急増、さらにコロナ禍の業績悪化で自力償還が困難になったことから、民事再生法に至っている。プレバケーション型の民事再生で、スポンサーには大垣共立銀行の親密企業で損保や飲食業の正和商事(株)(岐阜県大垣市)が選定されている。

理状況は、21年12月末で件数802件(既設984コース、建設・認可48コース)、負債総額16兆9872億円となった。ちなみに、表③は、バブル崩壊以降の法的整理をまとめてはいるが、ゴルフ場開発の認可を取得した段階(建設中、認可未着工)で法的整理を申請した4件を除いて作成しているため、数値が異なっている。  
**「名称変更」前年比1コース減の20コースに。PGMやサンコーなどグループ統一冠も目立つ**  
 ゴルフ場名称変更は、判明分で2021年は20コースとなり、前年より1コースの減少となった。ゴルフ場の名称変更は、経営交代の増加で2004(平成16)年の98コースがピークとなり、08年に63コースがあった以外は30コース前後で推移、また16年に39コースと増えた後は20コース強で推移し、19年24コース、20年21コースとなっていた。  
 21年に名称変更した20コースの内、12コースで経営交代となっており、半数を占めた。ここ数年の名称変更は集計した速報時で経営

交代要因が20年43%だったが、21年は60%と一転して比率が高くなった。

20年12月にPGMがANXグループから4コース取得し、21年4月にPGM石岡ゴルフクラブジャック・ニクラウスゴルフコース(旧・石岡GC、茨城)等と名称を変更。PGMでは民事再生のポンサーとなりグループ入りした池田CCもPGMの冠を付けた。

同じ4月には亀山湖CCの再生ポンサーとなったリソルグループが木更津東カントリークラブ(千葉)にコース名を変更した。その他、オーソルヴェール軽井沢倶楽部(旧・随縁軽井沢ナイハンドレッドC、長野)、伊豆大島リゾートゴルフクラブ(旧・大島GC、東京)、たいわゴルフクラブ(旧・ミヤヒル36GC、宮城)、広島吉和の森ゴルフ倶楽部(旧・チェリーGC吉和の森C、広島)、Blue Resort ランドマークゴルフ倶楽部(旧・ランドマークGC、岡山)が経営交代による名称変更。THE RAYSUM(旧・レイサムG&スパR、群馬)と、笠坂GCと富士高原GCコースのハウス共有化の富士麓坂36ゴルフクラ



ブ(静岡)はリニューアルが契機となった。また八幡CCは倶楽部を解散して「ザセントナイン東京」(千葉)と名称を変更、注目を集めた。サンコーグループは三甲ゴルフ倶楽部京和コース(旧・京和CC、愛知)、三甲ゴルフ倶楽部榊原温泉コース(旧・榊原温泉GC、三重)とグループ会社名を冠にした。なお、22年はサンクチュアリ霞南GCが親会社交代により、霞南ゴルフ倶楽部(茨城)に変更した。

表⑤ 2021年ゴルフ場名称変更一覧

県名	新コース名	旧コース名	年	月	変更理由等
石川	金沢東ゴルフクラブ	チェリーGC金沢東C	20	12	20年12月15日に明輝建設系に経営交代、16日変更
愛知	三甲ゴルフ倶楽部京和コース	京和CC	21	1	サンコーグループ。グループ会社名を冠に
岐阜	伊深の森カントリークラブ	正眼寺CC	21	1	開場40周年でゴルフ場名、会社名変更
岡山	Blue Resort ランドマークゴルフ倶楽部	ランドマークGC	21	1	(株)ブルーキャピタルマネジメント系に経営交代で
三重	三甲ゴルフ倶楽部 榊原温泉コース	榊原温泉GC	21	2	サンコーグループ。グループ会社名を冠に
茨城	PGM石岡ゴルフクラブ ジャック・ニクラウスゴルフコース	石岡GC	21	4	20年12月にANXグループからPGMが4コース取得
茨城	石岡ウエストカントリークラブ	石岡GCウエストコース	21	4	グループコースの名称変更で
群馬	THE RAYSUM	レーサムG&スパR	21	4	クラブハウス改修等リニューアル
埼玉	PGM武蔵ゴルフクラブ	武蔵GC	21	4	20年12月にANXグループからPGMが4コース取得
千葉	木更津東カントリークラブ	亀山湖CC	21	4	リソルグループ。知名度を考えて変更
千葉	PGMマリアゴルフリンクス ビートダイゴルフコース	きみさらずGL	21	4	20年12月にANXグループからPGMが4コース取得
千葉	PGM南市原ゴルフクラブ	南市原GC	21	4	20年12月にANXグループからPGMが4コース取得
東京	伊豆大島リゾートゴルフクラブ	大島GC	21	4	(株)アメニティコーポレーション系に経営が交代。8月リニューアル
長野	オーソルヴェール軽井沢倶楽部	随縁軽井沢ナイハンドレッドC	21	4	随縁グループから稲治造園工務所のグループに
静岡	富士麓坂36GC	麓坂GC	21	4	クラブハウス改修改修し36Hのコース名称に
静岡	富士麓坂36GC	富士高原Gコース	21	4	クラブハウス改修改修し36Hのコース名称に
大阪	PGM池田カントリークラブ	池田CC	21	4	民事再生による新設分割でPGM運営に
神奈川	GDO茅ヶ崎ゴルフリンクス	茅ヶ崎GC	21	5	運営受託のGDOがロゴ等も一新
宮城	たいわゴルフクラブ	ミヤヒル36GC	21	9	ミヤヒル36GC経営の青葉ゴルフが事業停止状態となり、所有権を取得した大阪の会社との契約で新設の(株)アクシスが運営
広島	広島吉和の森ゴルフ倶楽部	チェリーGC吉和の森コース	21	10	韓国の阿蘇やまなみRH&GCが事業譲渡を受け会員の権利等も承継
千葉	ザセントナイン 東京	八幡CC	21	11	経営の平岩観光(株)は八幡CCのクラブ解散し、新コース名に。コース・ハウス改修改修中
茨城	霞南ゴルフ倶楽部	サンクチュアリ霞南GC	22	1	株式譲渡で西山ホールディングスのグループ入り。会員の権利等も承継